

TAIHO



大豊工業 レポート 2017

Taiho Kogyo Report

2016年4月～2017年3月の取り組み報告

社 是

私たちは時流に先んじ、合理主義に基づき

優れた製品をもって顧客の信頼に応える

— 信頼の大豊 —

Taiho Means Reliability

With this as our motto.

We at Taiho Group respond to the trust that our customers have lodged in us, by supplying quality products in anticipation of future needs and based on rational solutions.

創業以来、自動車の「摩擦・摩耗」をテーマに、その基礎研究から応用に至る幅広い技術を蓄積し、「トライボロジー（摩擦工学）のスペシャリスト」として、発展してきました。モノづくりにこだわり、「創意と工夫」「絶えざる改善」「チームワーク」を柱として、魅力ある製品をご提供し、お客様の信頼にお応えします。



発行目的

「大豊工業レポート2017」は、当社の企業価値を高めるために、ステークホルダーの皆様との対話を促すことを目的として発行しています。また当レポートの内容は3つの項目を考慮して企画・発行しています。

- 1 会社の将来イメージの共有
- 2 CSR方針に関する各種取り組み
- 3 製品による環境貢献量の開示

対象範囲・期間

大豊工業株式会社の取り組みを中心に掲載範囲を決めています。国内グループ5社、海外グループ7社においては、環境活動の取り組みを事例として記載しています。また、経営パフォーマンス、環境パフォーマンスにおいては、国内、海外を含めた範囲を掲載しています。期間は2016年4月から2017年3月としています。

トライボロジーとは

すべりの現象を解明し、
摩擦・摩耗を低減・
コントロールする学問分野

= トライボロジー

固体が動くとき…



が発生

当社のトライボロジー技術

自動車部品を作る当社では、材料、設計、潤滑技術により、
低摩擦な製品を開発しています。

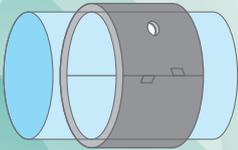


軸受とは

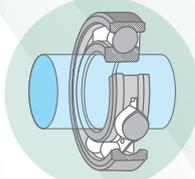
軸受には「すべり軸受」と「ころがり軸受」の2種類があります。
すべり軸受は、軸と軸受との間に油などの潤滑材を使用し、軸の
滑らかな回転を支えています。

当社はこの「すべり軸受」を開発・生産しています。

潤滑理論により油膜圧力発生メカニズムなどを計算解析し
設計することで、ころがり軸受では耐えられないエンジンの
高負荷に耐えることができ、静粛性・耐振動性・寿命にも優れ
ています。



すべり軸受



ころがり軸受



大豊グループ(連結)

大豊工業(株)
全工場 / 事務 / 技術

国内グループ

大豊精機(株)、日本ガスケツト(株)、大豊岐阜(株)
(株)ティーイーティー、(株)タイホウライフサービス

海外グループ

TCA、PTN、TCE、TCK、TCY、TCT、WBM

目次

社是・発行目的	1
TOP INTERVIEW	3
特集	
中期的な事業戦略	7
燃える職場・社員総活躍プロジェクト	9
CSR活動のハイライト	11
事業概要	13
2016年度の取り組み報告	
コーポレートガバナンス	15
お客様とともに	16
従業員とともに	17
取引先とともに	18
社会、地域とともに	19
株主・投資家とともに	20
地球環境のために	21
環境データ	27
財務データ	29

昨年からの変更点

- ・表紙デザインを、当社のすべり軸受と水で流体摩擦を表現
- ・担当者、利用者の声を増加
- ・財務データを読み易く改善
- ・全ページにわたりイラスト、写真を増加

お問い合わせ先

CSR推進室 TEL:0565-28-2225(代) FAX:0565-28-2227

●公表媒体

本報告書は、当社ウェブサイト上でのWEB版と冊子配付により
公表しています。

大豊工業 環境

検索

●参照ガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・GRI サステナビリティレポートガイドラインVer4.0
- ・IIRC IR統合報告フレームワーク

●免責事項

本報告書には将来見通しについての方策や計画が記載されて
います。これらは2017年5月時点での当社の予測に基づく内容
であり、天災、経済動向、法規制動向、業界動向などのリスク
や不確実性を含んでいます。そのため、計画などについては
実績と異なる可能性がありますので、読者の皆様にはご承知
おきくださいますようお願い申し上げます。



グローバルでの
躍進をめざして
人財を育み
組織を
活性化する

代表取締役社長

杉原 功一

2016年度の総括

「VISION2020」実現への確かな手応え

特集①へ

2016年度は「VISION2020 ～地球環境とお客様への貢献～」の実現に向けた新中期経営計画のスタートの年でもあり、新製品の開発や国内外への拡販、原価低減活動などにグループの総力を挙げて取り組んだ結果「トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバルにお客様へお届けする」ことは現実のものになりつつあると手応えを感じています。

VISION2020に向けた取り組みの内、今回は「VISIONを実現する人財づくり」を中心にお話したいと思います。



中期経営方針 2016-2018年度

VISIONを実現する人財

『第一の矢』人財力向上に向けた体系づくり

特集②へ

一昨年度より「燃える職場・社員総活躍プロジェクト」をスタートし、「教え・教えられる風土の醸成」のスローガンのもと『三本の矢』を策定し、まずは『第一の矢』である「人財力向上に向けた体系づくり」に着手しました。

大豊グループにはQC活動やTQM活動に取り組んできた歴史があり、それが現在の礎になっているといっても過言ではありません。当グループが持続的な成長を続けていくためにも、人にスポットをあてて組織を活性化することが重要だと考えています。

技能系社員を対象とした「元気工場プロジェクト」は、改善する喜びを社員に実感してもらうことで個々のモチベーションを高め、職場の一体感を醸成することを目的としています。

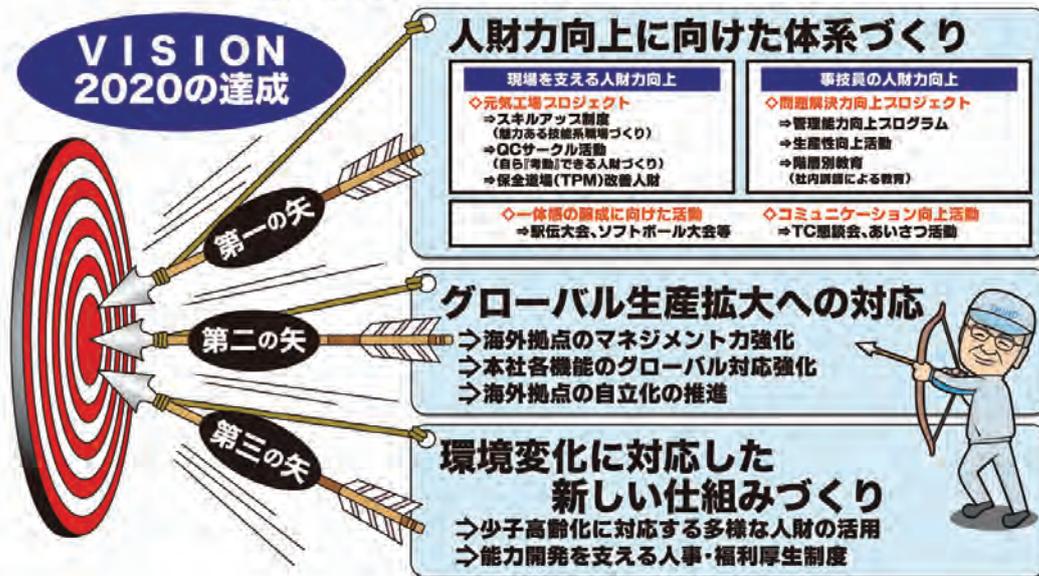
当グループは平均年齢が若く、仕事を教える世代が少ないため、人財育成においては危機感を抱いて

おりました。そうした思いもあって2017年度は「スキルアップ制度」をスタートしました。この制度はカンやコツといった「暗黙知」を「形式知」にすることによって技術・技能を正確に伝授していく仕組みです。その過程においては多くの気付きがあり、教える側にとってもよい刺激を得ることができました。

事技系社員にむけては「管理能力向上プログラム」をスタートし、問題解決能力の向上やマネジメント改善などによる生産性向上を念頭において活動しています。課題をピックアップし、優先順位をつけ、その解決策を立案・実践して、反省するという一連のプロセスの中で、特にコミュニケーションを重視しています。

「元気工場プロジェクト」と「管理能力向上プログラム」。この2つの取り組みを両輪に、人財を育み、組織の活性化を進めてまいります。

『燃える職場・社員総活躍プロジェクト』 ～教え、教えられる風土の醸成～



『第二の矢』グローバル生産拡大への対応

当グループにとって海外市場での拡販が今後ますます重要になる中で、特に北米、欧州、中国などの戦略的に重要な海外拠点は、生産・販売を担うプロフィットセンターとしての一層のレベルアップが必要不可欠です。そのためには大豊工業からのサポートもより強化せねばなりません。2017年1月には「大豊ワンチーム」として、品質、原価、製造準備、保全、生産管理といった各機能の横串連携を狙った新体制を導入しました。6月からは本社機能軸による横串活動の深化をねらい、グローバル営業力の強化に向けた体系づくりを推進しています。

また、海外拠点のマネジメント強化策の一環として、赴任者教育やローカル人財力の向上に取り組むとともに、海外拠点を強力に支援できる“一人称で仕事ができる”タフな人財の育成にも取り組んでおります。

『第三の矢』環境変化に対応した新しい仕組みづくり

「働き方改革」が注目される中、「少子高齢化に対応する多様な人財の活用」や「能力開発を支える人事・福利厚生制度」に取り組んでいます。

かねてより育児休業制度や社内託児所(T-Kids)などの福利厚生面を充実させてきましたが、社員のニーズが多様化してきたため、ニーズに合わせた福利厚生を選択できるように今後カフェテリア方式を採用する予定です。

2017年3月には厚生労働省より「第1回 働きやすく生産性の高い企業・職場表彰」の優秀賞を受賞しました。これは生産性の向上と雇用確保・雇用環境の改善を両立させた企業として評価されたものであり、これからも企業成長の源泉である社員を大切に、より魅力的な企業風土の醸成に取り組んでまいります。

	本社	細谷	篠原	幸海	九州	Gr会社	海外
本社機能部署	安推・CSR・総務人事		◇安全・環境・総務人事機能				
	品質保証部		◇品質機能				
	経理部		◇原価管理機能				
	素革/第1生技		◇製準機能				
	第2生技		◇保全機能				
	生産管理部		◇生管機能				

機能軸(方針展開・人材育成・リソース配分)

横串活動イメージ図

このような取り組みの成果もあらわれ、2016年度の売上高は1,089億53百万円となり、過去最高となりました。利益面では営業利益63億57百万円、経常利益62億65百万円、当期純利益44億54百万円となり、経常利益は売上増や合理化努力による利益増がありましたが、円高や新製品の立上げによる労務費、経費増などの影響で前期比で減益となったものの、当期純利益は過去最高を達成することができました。

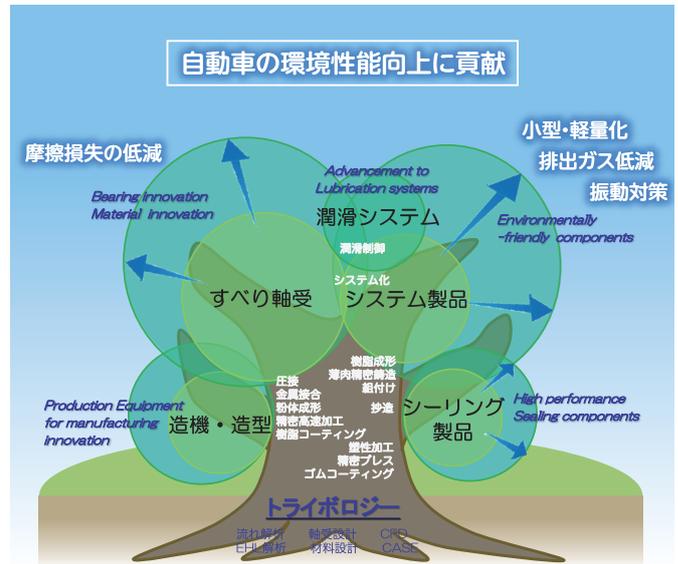
持続可能な社会とその発展に貢献

環境対応に関する取り組みについて

地球環境への貢献については、HV車、PHV車、EV車、FCV車などの普及が急速に進む中で、当グループのコア技術をもって自動車業界の電動化に対応すべく新領域の開拓に総力を挙げて取り組んでおります。

また、高効率で低燃費なエンジンの開発においても、軸受製品における次世代加工ラインや高性能材料の実証ライン導入を進めています。軸受製品以外にも「バキュームポンプ」などの環境対応製品の引き合いが増加しており、環境・社会に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバルに供給してまいります。

そして生産活動における環境負荷の軽減にもさらに注力し、「第6次大豊環境取り組みプラン」の達成にも取り組んでまいります。



トライボロジーを核とした事業領域の拡大と環境貢献

大豊グループのCSRについて

特集③へ

当グループのコア技術であるトライボロジーの研究開発支援を目的とした「大豊工業トライボロジー研究財団(TTRF)」においても、国際シンポジウムの開催や若手トライボロジストの助成などを通じて、引き続きトライボロジー分野の研究促進に貢献してまいります。

また、豊田市内の小中学生を対象にモノづくりの楽しさを教える「豊田少年少女発明クラブ」の支援と



して、社員の講師派遣や当社施設の提供など地域社会の発展にも継続して貢献しています。

これらの取り組みの起点となっている当グループのCSR方針は、社是「信頼の大豊」に基づくものであり、コンプライアンスや社会貢献、さらには事業継続といった、さまざまな社会的責任に着実に応えていきたいと考えています。さらにトライボロジーを核とした製品によって、社会的価値を持続的に生み出していくことが私たちの使命と考えております。

同時に経営の健全性や透明性を高め、誠実な事業活動を通じて、あらゆるステークホルダーの皆様からの信頼を築いていく所存です。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「VISION2020」達成に向け、 2016-2018年度の新中期経営計画をスタート

VISION2020 ～地球環境とお客様への貢献～
トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバルにお客様へお届けする

VISIONを実現する大胆
グループの持続的成長

地球環境に貢献する
イノベーション

グローバル基盤を支える
製造・生産技術

2020年の世界

多様化するエネルギーと 広域化する環境課題	成長を続ける新興国と高度化する先進国、 自動車市場は1億台へ
発展途上国の人口増と先進国の高齢化、 生活環境の高度化につれ資源が枯渇	環境技術が進化し、 技術のモジュール化と大規模化が進展

中期経営方針 2016-2018年度

ゆるぎない 「信頼と技術」で グローバルに躍進

- 技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる。
- 人材・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する。

TAIHO

VISION2020と中期経営計画

(単位：億円)

売上高 推移



VISION2015

2013-2015
前中期経営計画

VISION2020

2016-2018
中期経営計画

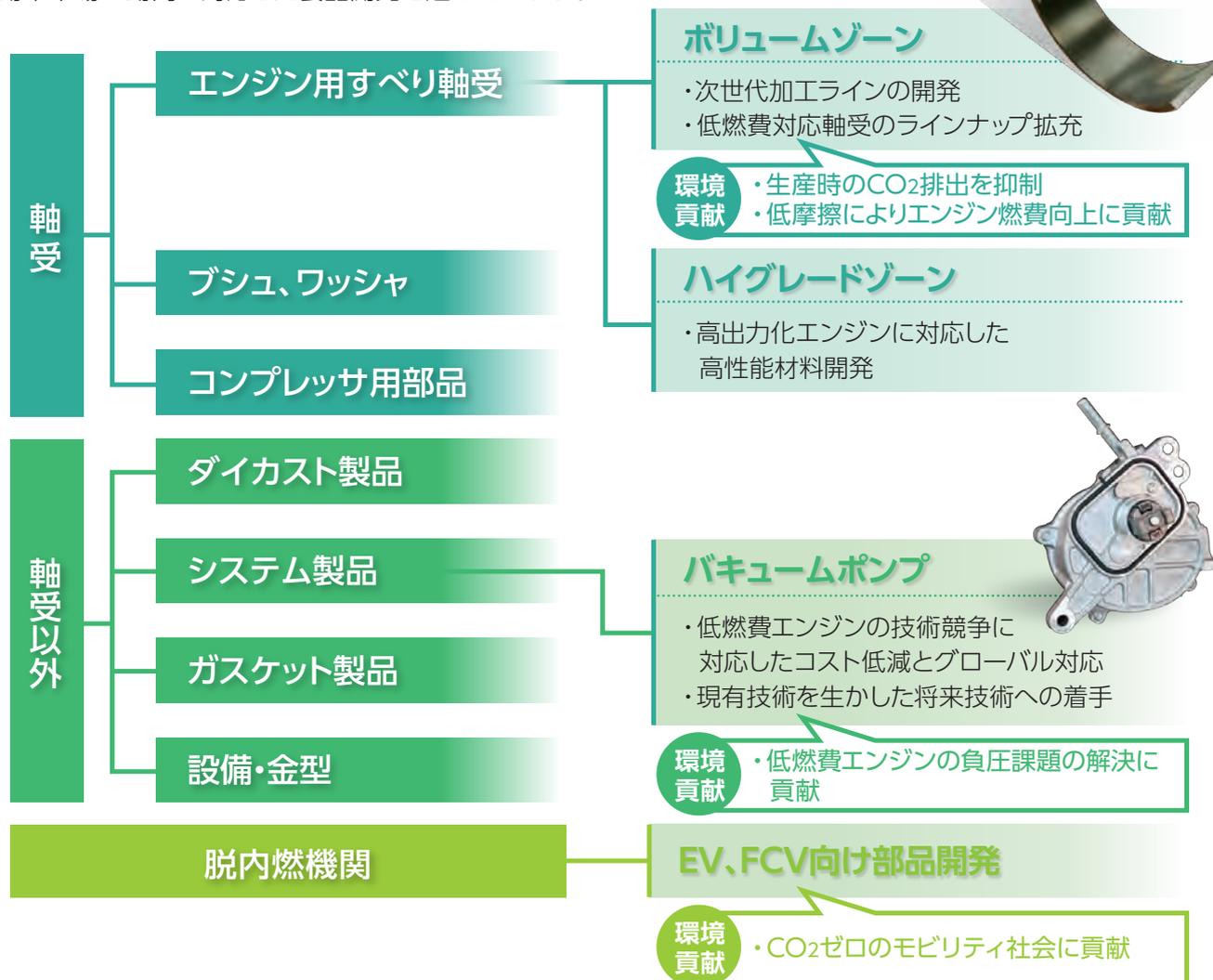
3年計画のローリング

3年計画のローリング

2011年度からVISION2015をスタートし、2015年度に売上高1,000億円(2007年度以来)を達成しました。VISION2020の実現をめざしていくなか、2016年度から中期経営計画をスタートし毎年ローリングしながら持続的な成長を図っていきます。

●地球環境に貢献するイノベーション

自動車市場の動向に対応した製品開発を進めています。



●グローバル供給を支える製造・生産技術

お客様の現地調達ニーズに応え、良品廉価な製品を提供します。

2016年度は主に中国の拠点の素材生産、樹脂コーティング軸受生産を拡大しました。今後、北米拠点にてシステム製品の生産を開始するほか、岐阜県の国内拠点の工場を増築し、更なる生産拡大を進めていきます。



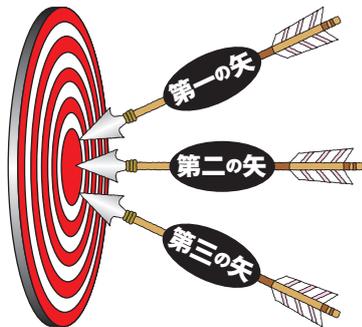
大豊岐阜(株)第3工場 2017年4月竣工

●VISIONを実現する人財

詳細はP9~10 特集②へ

～教え、教えられる風土の醸成～

「VISION2020」達成に向け、大豊グループ一丸となって「3本の矢」を推進しています。



人財力向上に向けた体系づくり

グローバル生産拡大への対応

環境変化に対応した新しい仕組みづくり

企業の成長の源泉は、社員一人ひとりが元気に活躍できる職場にあり、職場の問題や課題を解決することは、職場の活力につながります。

会社として、3本の矢の推進により問題解決力・課題解決力を向上させ、より持続的な取り組みとして後戻りしない職場の風土づくりを進めることは、「VISION2020」達成に向けて不可欠です。



● 人財力向上に向けた体系づくり

ねらい 人にスポットをあて、組織を活性化する。

現場を支える人財力向上 ～元気工場プロジェクト～

より快適な職場を目指し、自ら改善する「楽しみ」や「メリット」を実感させモチベーションアップに繋げていくことを念頭においた活動です。

2016年度は標準作業の「徹底」と「改善」を進め、2017年4月からスキルアップ制度をスタートさせています。



プロジェクトリーダーの声

2015年から元気工場プロジェクトはスタートしました。「教え・教えられる風土の醸成」一人ひとりが主役となり、絶えざる創意くふうと改善によりモチベーションを向上させ、常に顧客に感動を与える製品をつくり・提供し続けることを目的として、人づくり・ものづくりを重点に置き取り組んできました。元気工場プロジェクトは、2つの柱で進めています。まず、人づくりでは、知識と技能の明確化と技能の修得・伝承(暗黙知の形式知化)を目的にスキルアップ制度をスタートさせました。次に、ものづくりでは、標準作業の徹底と改善で、「異常に見える化」することから改善につなげるほか、3段階での職場レベルの見える化を進めました。作業者が達成感を得ることで、次のレベルに向けての動機づけとなり、更なるスパイラルアップを図っています。2016年より国内外「元気工場プロジェクトで統一」し同じレベルに到達することを目指しています。それと同時に、私自身の目標として、次なる名工の育成も図っています。

2016年、当社として初めて「あいちの名工」に選ばれました。



グローバル生産支援室 理事 中根 鋭二



スキルアップ制度 実技研修



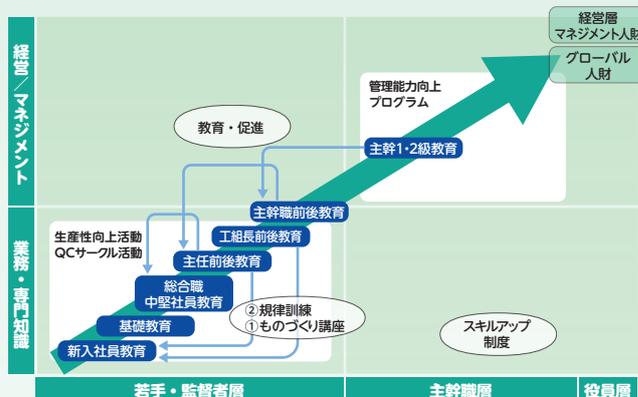
改善状況の現地点検会

事技員の人財力向上 事例:管理能力向上プログラム

管理職の問題解決能力・管理能力・リーダーシップ向上、マネジメント改善による職場の生産性向上を念頭においた活動です。組織や職場を扱う管理課題の問題解決の推進に対して、役員による点検が実施されています。



役員による点検会の様子



一体感の醸成に向けた活動

グループ全体の一体感の醸成を図るため2016年10月30日に豊田スタジアムで第2回駅伝大会を開催しました。当日は従業員とその家族を含め約2,150名が参加し大いに盛り上がりました。



●グローバル生産拡大への対応

ねらい お客様の現地調達ニーズに応える。

- グローバル視点での仕組みづくり** 中国ビジネスの推進強化と海外拠点の自立化推進
- 海外拠点のマネジメント強化** 赴任者への教育、ローカルスタッフの人財力向上
- 本社各機能のグローバル対応強化** 海外拠点のバックアップ体制強化



●環境変化に対応した新しい仕組みづくり

ねらい 多様な人財の多様なニーズに応える。

- 労使一体となって取り組む「働き方改革」** ダイバーシティ推進の強化
- 福利厚生制度の充実 など**

「第1回 働きやすく生産性の高い企業・職場表彰」優秀賞を受賞

こうした人財力向上活動を中心とした「働き方改革」の取り組みが評価され、2017年3月10日、厚生労働省による「第1回 働きやすく生産性の高い企業・職場表彰」の大企業部門・職業安定局長賞（優秀賞）を受賞しました。



表彰式の様子

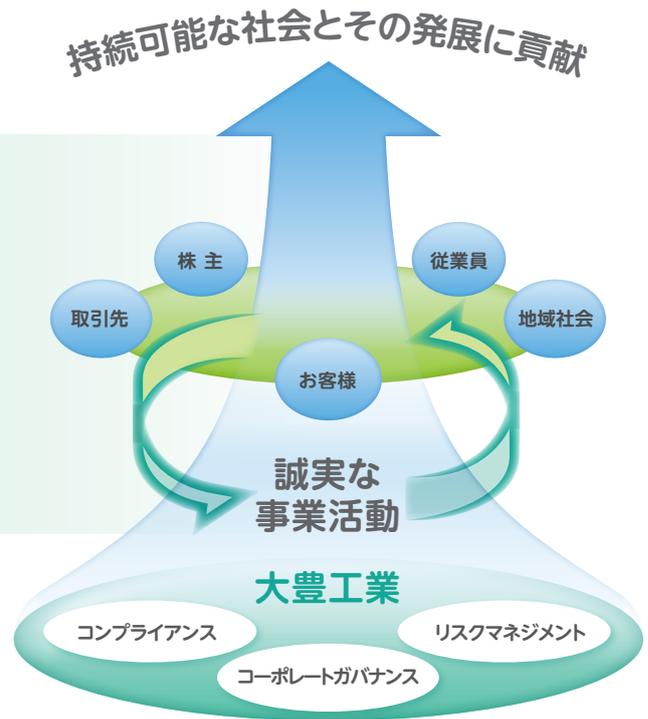


グローバルな企業活動を通じて、 企業としての使命を果たすことで 「持続可能な社会とその発展に貢献する」

●CSR方針

私たちは、グローバルな企業活動を通じて企業としての「使命」を果たし、持続可能な社会とその発展に貢献します。
その実現のために、株主、お客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーと健全な関係を築き、お客様に満足していただける製品を提供することにより、豊かな社会の実現を目指します。
また、国内外・国際的な法令ならびにそれらの精神を遵守し、社会的良識をもって誠実、公正、透明な事業活動を行います。
私たちは、これらの実現が自らの役割であることを認識した上で、企業が負う責任を果たし、社会に信頼される企業であり続けます。

当社のCSRは、**コーポレートガバナンス**、**コンプライアンス**、**リスクマネジメント**の3つを基盤とし、ステークホルダーの皆様に対し、誠実な事業活動を通じて対話に努めます。



●TTRF財団(研究助成)

世界のアカデミアに貢献

大豊工業トライボロジー研究財団(Taiho Kogyo Tribology Research Foundation)は、米国イリノイ州に財団本部があり、全世界的な活動を展開しています。当社がトライボロジー研究及び開発に関する助成や、若手トライボロジストへの助成などを目的として、2000年10月に設立した財団です。

TTRF-TAIHO 第2回 国際シンポジウム International Symposium on Automotive Tribology 2017

2017年4月19日、名古屋国際会議場でTTRFと共催で第2回国際シンポジウムを開催し、当日は約160名の国内外のトライボロジー関係者に来場いただきました。第1回目はトライボロジーを俯瞰的に議論しましたが、今回の第2回目はパワートレインの摩擦低減技術にテーマを絞り、且つ産学両者からの視点で意見交換できるプログラムとしたことで、より活発な討議を行うことができました。今後もTTRFへの支援を通じて、継続的なトライボロジー技術の発展と社会の発展に貢献します。



第2回 国際シンポジウム(名古屋国際会議場)

● 豊田少年少女発明クラブ(社会貢献) 地域の方々との調和

豊田少年少女発明クラブは、豊田市内の小中学生を対象にモノづくりの楽しさと創造の喜びを知ってもらうため、豊田市の企業、政財界の支援のもと1981年に設立されました。当時の当社社長である大塚氏が初代理事長に、現在は4代目理事長として前社長の上田氏が務めています。また、設立当時から現在まで、当社の従業員を指導員として派遣しています。2017年4月、当社施設の一部を、豊田市内4か所目となる「緑ヶ丘教室」として提供しており、より一層の社会貢献に努めています。



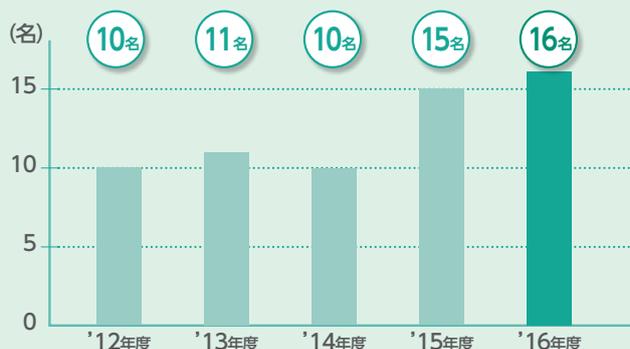
2017年4月 緑ヶ丘教室の開校日



当日の様子

● T-Kids(社内託児所) 従業員への理解・配慮

2016年4月の女性活躍推進法施行に伴い、当社では従来より『次世代育成』の観点から育児支援のための制度の定着などに取り組み、育児休業制度利用者は増加傾向にあります。また、2015年4月にはT-Kids(社内託児所)を開園しました。今後は女性活躍の観点も交え、更なる施策の充実を図って参ります。



育児休業制度の利用者推移



キャベツを使った食育カリキュラム

T-Kidsの利用者の声

現在2歳になった次男を預けています。復職前は、幼い次男を連れて長男を保育園へ送迎するのが大変でした。夫も同じ会社に勤めている為、夫婦で送迎ができる環境となりとても助かっています。また、泣く子どもを預ける時も辛いと感じることもありますが、保育士さんの気遣いもあり安心して会社に向かうことができます。T-Kidsは、衛生面、食育、運動などの環境が整っており、日々、子どもの成長も感じる事ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



第2開発部
後藤 真由美

会社概要

商号 大豊工業株式会社
 本社 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65
 創業 1944年12月
 資本金 66億3千6百万円
 従業員数 連結:4,280名
 単独:1,650名

生産拠点

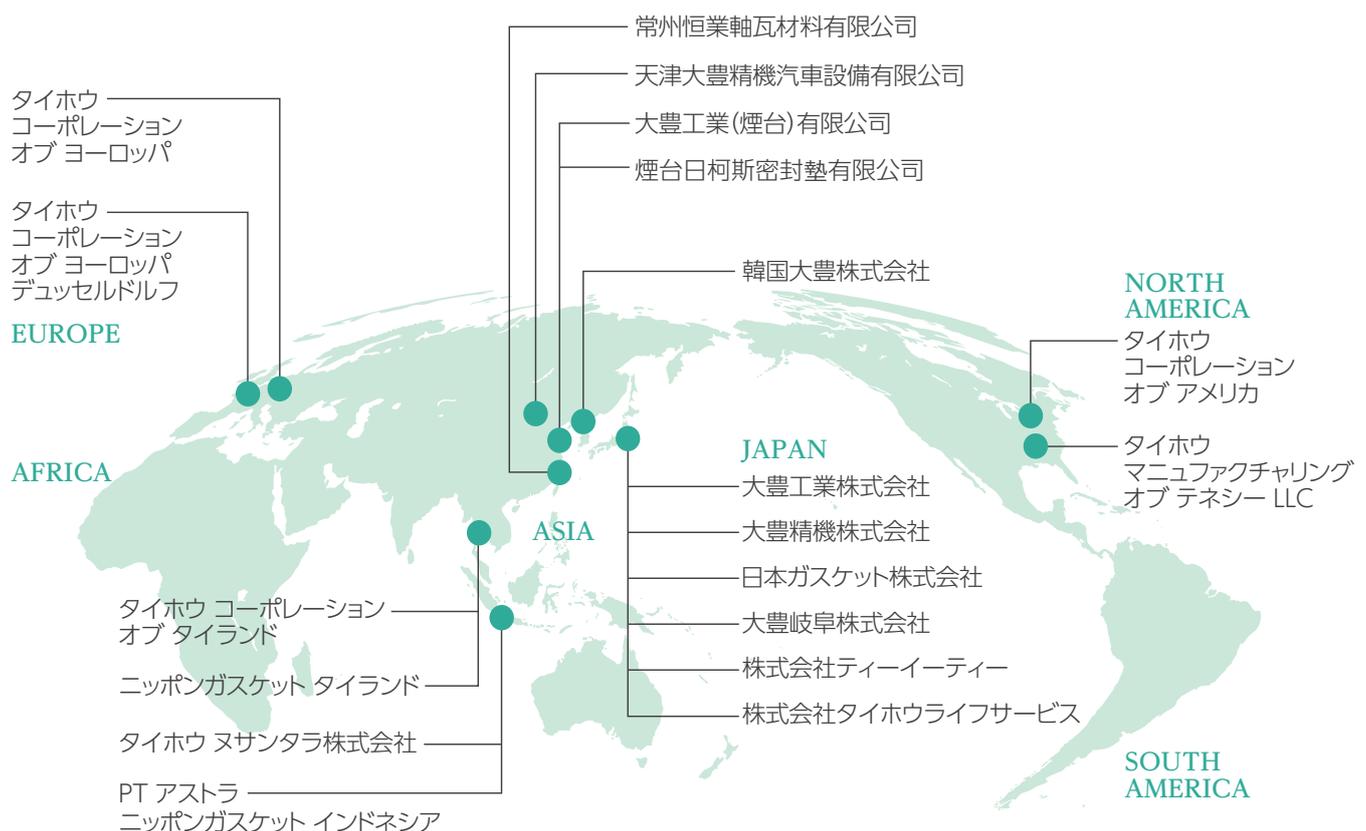
本社工場 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65
 細谷工場 愛知県豊田市細谷町2-47
 篠原工場 愛知県豊田市篠原町敷田37-1
 幸海工場 愛知県豊田市幸海町市田上切2-1
 九州工場 鹿児島県出水市緑町50-19

主な施設、営業所

本社 / 営業部 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65
 技術開発センター 愛知県豊田市細谷町2-47
 東京営業所 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル8F
 大阪営業所 大阪府大阪市淀川区宮原4-3-12



大豊グループ



製品紹介

軸受



エンジンベアリング



ワシヤ



カーエアコン用
コンプレッサ部品



ワシヤ

システム製品



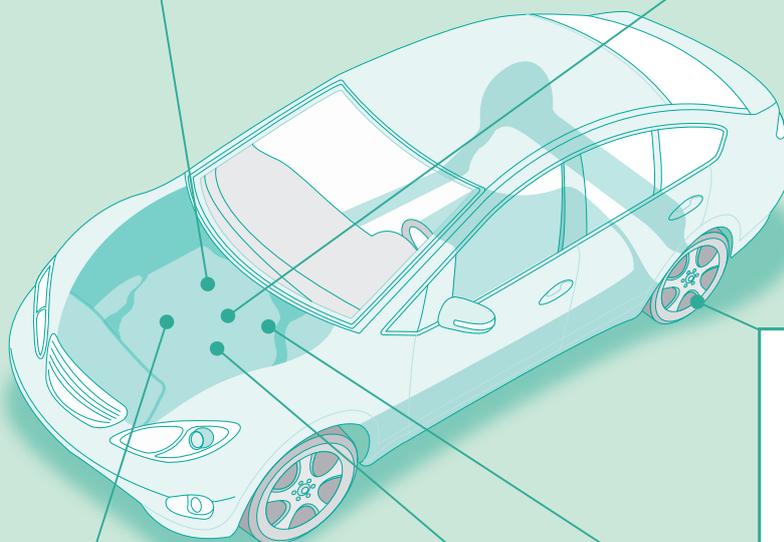
バキュームポンプ



EGRバルブ



高圧チェックバルブ



バランスウエイト
その他



カムハウジング

インレットエルボ

ダイカスト製品

デフキャリア



ガスケット

ガスケット



樹脂ギア

その他

コーポレートガバナンス

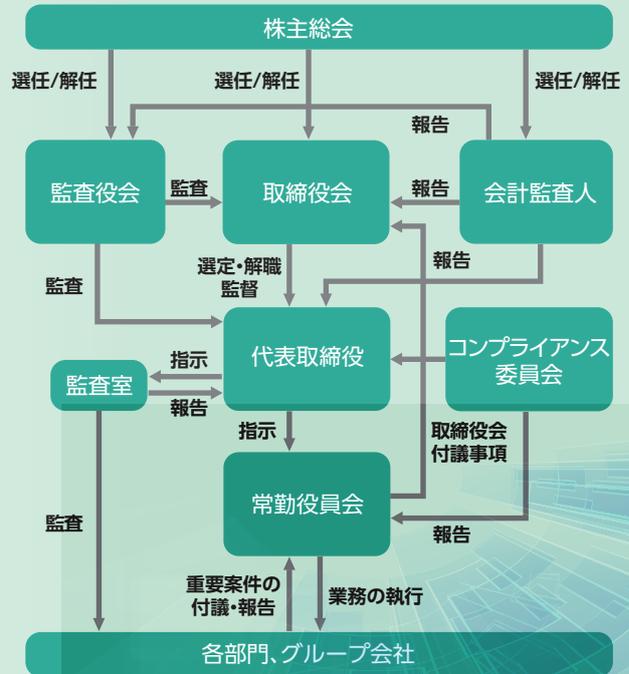
大豊工業のコーポレートガバナンス体制

当社は、コーポレートガバナンスを「株主に代わって、経営の効率性や適法性等をチェックする仕組み」とであるととらえ、この仕組みにもっとも適したものとして、右記のコーポレートガバナンス体制を整えています。

社外取締役2名を含む取締役会は、法令で定められた事項のほか、経営に関わる重要事項の意思決定と取締役の監督機関と位置付けており、原則として毎月1回開催しています。

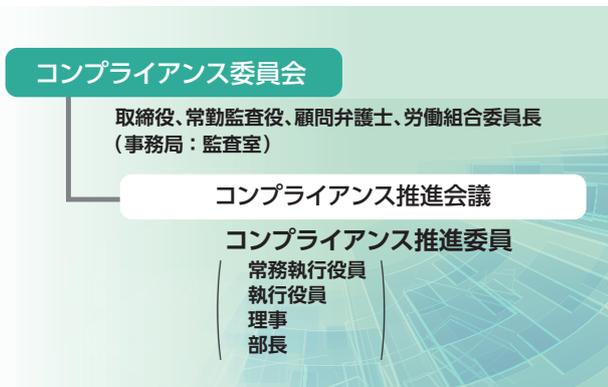
監査役会は、社外監査役3名を含む4名体制で設置され、取締役の業務執行を監視し、取締役の経営判断に対する牽制的役割を担うなど、経営管理体制のチェックができる仕組みになっています。

会計監査人は、取締役が作成した財務諸表の適正性や内部統制の有効性等を評価し、財務諸表の適否に係る意見表明といった情報提供の役割を担っています。



コンプライアンス体制

大豊工業の内部統制機能を補完する仕組みの一つとして、企業倫理と法令等の遵守を徹底するため、当社ではコンプライアンス体制を構築しています。下記会議体の他、「企業倫理・法令遵守(コンプライアンス)定着度調査」の実施や、法改正情報の適時適切な入手、展開および対応を図るための仕組みの運用等を行っています。



内部通報制度

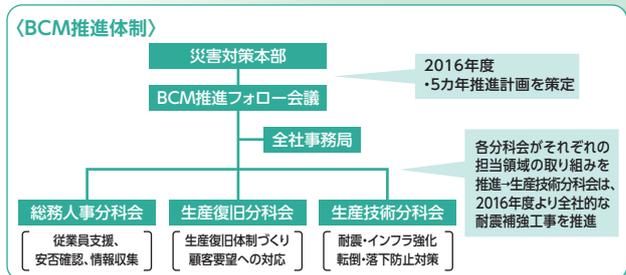
当社では、従業員に対して倫理・法令上の相談や、困り事や悩み事を受け付ける「なんでも相談・連絡窓口」を設置しています。

事業継続マネジメント

大規模災害等の発生に備え、被害の最小化と早期復旧のために生産をはじめ各機能が事業継続マネジメント(BCM)に向けて訓練を重ね取り組んでいます。

防災基本方針

- 1 人命第一**
従業員およびその家族や来訪者等の安全を確保するために、防災対策の徹底を図る。
- 2 企業活動の維持**
十分な防災対策を講ずると共に、災害が発生した場合、迅速に復旧できるよう事業継続策を講ずることにより、重要な事業を継続する。
- 3 地域・対外対応**
(社外への被害防止・情報公開・地域支援活動他)
社外への被害防止策を講じると共に、顧客や協力会社との情報共有、近隣への地域支援や復旧への支援を実施する。



お客様とともに

お客様へ新たな価値を提案

顧客満足



顧客満足度調査

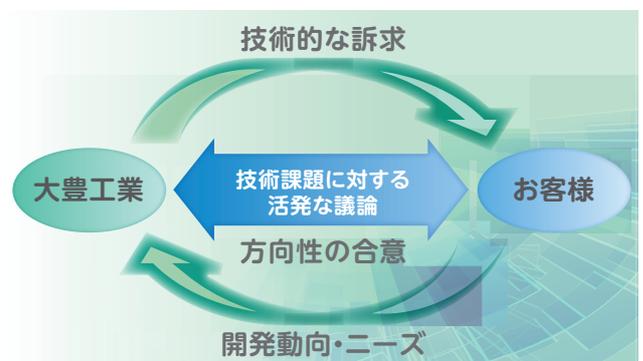
当社の製品を納入させていただいているお客様の声や潜在的ニーズを、製品・技術・サービスに反映し、満足していただける品質を継続的に提供していくために「顧客満足度調査」を実施しています。

顧客満足度調査のフロー



技術交流会

お客様のニーズに合った技術開発を進めるため、お客様との技術交流会を定期的に開催しています。当社の技術的訴求に留まらず、お客様の開発動向やニーズを把握し、双方の技術課題に対する活発な議論を行う場としています。今後も開発進度を上げてお客様のご期待に応えられるよう推進していきます。



安定的な良品の供給

品質管理



当社の経営方針であるVISION2020達成を目指し、グローバルな展開を推進していくために、「顧客第一」や「法令遵守」を織り込んだ方針としています。大豊グループへ展開を図り、グループ一丸となってさらなる品質向上に取り組んでいます。

品質基本理念

「顧客第一」に徹し、顧客に満足される「品質」を継続的に提供する。

品質基本方針

- 1 関連する法令と規制を遵守し、これらを取った、付加価値のある新製品を顧客に提供する。
- 2 顧客ニーズを満たす商品を生み出し、顧客に満足いただける品質を確保・提供する。
- 3 品質マネジメントシステム(QMS)の継続的な改善を図り、効果的な品質保証活動を推進する。

ISO/TS16949：2009の認証取得



当社は世界の自動車メーカーが世界の統一規格として認証取得を推奨している品質マネジメントシステム規格「ISO/TS16949：2009」を取得しています。

品質管理に関する取り組み

各工場、各部署の失敗から得た知見をグループ会社間で共有することで、同じ要因から発生する不具合を未然に防ぐ活動を推進しています。大豊品質改善事例展示会を全工場で開催し、優秀改善事例は社長表彰を行うなど全従業員の品質意識向上に向けて取り組んでいます。



従業員とともに

安全衛生は、始めから終わりまで全てに優先

労働安全衛生

あたり前の事を 確実にやり遂げる!!

当社の『安全衛生方針』は、経営トップの思いを定めた安全・衛生の姿です。この方針をもとに、労働災害ゼロの達成を目標としています。

労働安全活動の取り組み

6月から7月にかけて、安全月間行事を実施しています。2016年度は、「全役員参加の工場安全点検」、「KY大会」、「ポケテナシ活動」などを実施し、安全・安心な職場の風土づくりを進めています。



ポケテナシ活動の様子

安全衛生方針

- ① 労働安全衛生法および、関係する諸法令と社内規則・基準を遵守し、災害の発生防止に努める
- ② 全災害未然防止を基本に、本質安全と従業員の意識向上を図り体質を強化する
- ③ 衛生管理の充実と、全従業員の健康維持増進を図る

衛生活動の取り組み

生活習慣の改善に取り組むため、健康づくりキャンペーンを継続して実施しています。各々が達成目標や取り組みを宣言して進めるこの活動は、トヨタ関連部品健康保険組合より3年連続で取り組み賞を受賞しています。



当社担当役員と衛生部門スタッフ

一人ひとりの個性と多様性を尊重

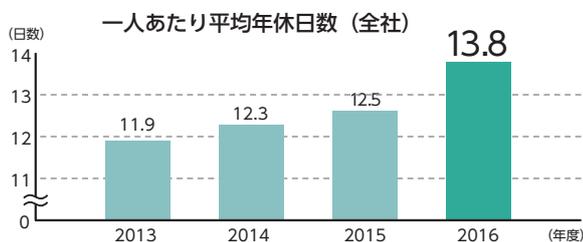
人財育成・雇用

当社では、グループ会社を含めた従業員が生き生きと働ける環境づくりを目指し、人事制度の充実に向け、適材適所での人財の配置・交流ができる仕組みづくりの構築と、会社の継続的発展を支える人財力向上に向け、教え・教えられる風土の醸成に向けた活動を推進しています。

労使に関わる取り組み

ワークライフバランスの取り組みとして労使で年休取得目標を設定しています。過去3年間で年休取得日数は増加しています。

また、労使協議の場で総労働時間削減の議論を行っています。



雇用に関わる取り組み

正社員が育児、介護、配偶者の転勤により一定期間退職する際、年齢基準などに適合のうえ復職希望を示す事で、再雇用する制度を運用しています。

利用者の声

配偶者の転勤による再雇用制度を利用し、約6年ぶりに復職しました。

夫の海外赴任に合わせて、家族としてサポートしたい気持ちと、私は仕事を続けたいという気持ちに葛藤がありました。この制度で両立することができました。

また、再雇用後は部署異動も経験し日々新しいことを学ぶことができています。

総務人事部
荒川 彩子

取引先とともに

持続的な事業活動を支える

適正取引

調達基本方針

- 1 開かれた公正・公平な取引の原則
- 2 調達相手先と一体となった競争力強化の原則
- 3 調達相手先との共存共栄の原則
- 4 原価低減活動等における課題・目的の共有と成果シェアの原則
- 5 相互信頼に基づく双方向コミュニケーションの確保の原則

当社は、「調達基本方針」に基づき、適正取引の推進を図っています。調達方針説明会でeSQCD等の期待値を提示し、取引先へ年間活動テーマとして展開していただいています。

グリーン調達ガイドライン

第6次大豊環境取り組みプランの策定に合わせ、ガイドラインの改訂を2017年1月に行いました。

PDF版を当社ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.taihonet.co.jp/company/green.html>



豊成会の取り組み

豊成会は、当社の協力会社(全22社)で構成される組織として、1989年に結成され、大豊グループ協力会として相互研鑽を通じ、企業の発展を図っています。

技術開発・改善事例展示会

グループ力の最大化と相互理解によるパートナーシップ強化を目的に、2012年から「技術開発・改善事例展示会」を開催しています。2016年度は18件の開発、改善事例が展示されました。



展示会の様子

豊成会の担当者の声

展示会を通して、多くの方からご意見やご質問を頂き、次の改善のきっかけとなっています。社内の活性化にも繋がっており、励みになっています。



(株)ニシムラ
臼井 雅通

グローバル調達の取り組み

安定調達

適正価格で安定調達を維持するために、グローバル調達を加速させます。そのため、調達機能としての体制や個々のスキルの充実を図っています。

現地調達化に向けて

北米におけるバキュームポンプの現地生産に向け、現地の取引先様と一体となったチーム活動により後戻りのない生産準備を進めています。

サプライチェーンマネジメント

東日本大震災において調達困難な原材料、部品の代替先検討等の実体験をもとに反省し、サプライチェーンの把握に取り組み、大規模災害を想定した具体的な「生産の構え」を検討開始しています。これは、当社の事業継続マネジメント(BCM)の一部と連動しています。

紛争鉱物に関する対応

大豊グループで製品、購入部品、原材料には紛争鉱物を使用しないと宣言すると共に、取引先に対し、製錬所の情報入手と、不使用の証明書提出を要請しています。

社会、地域とともに

本業を通じた社会貢献活動

「大豊工業トライボロジー研究財団(TTRF)」によるトライボロジー研究者への助成活動を継続しています。
また、豊田少年少女発明クラブや、キッズエンジニアなど、青少年育成の場にも従業員が講師となって参画しています。

詳細はP11~12 特集③へ

地域との交流

「夏まつり」「大豊祭」を開催し、地域の皆様にも楽しんで参加していただけるイベントとして、感謝の声をいただいています。
また、地域の皆様と懇談会を定期的に行い、ご要望などの意見交換を行い、連携を深めています。



夏まつり



大豊祭



地域との懇談会(九州工場)



工場見学(本社工場)

地域への貢献活動

「一人でも多くの方に地域貢献活動の理解と関心を」との思いから推進し、職制会会員や、執行役員にもボランティア活動に参加いただき、従業員への参加意識の向上やコミュニケーションの場づくりとなっています。

	主な社会貢献活動	活動内容
4月	・桜の植樹	植樹
5月	・ひかりの丘活動	草刈り 花壇作り
7月	・第14回 障がい者交流ダーツ大会	ダーツ大会運営
10月	・ALL TOYOTA Big Holiday ・ふれあいプラザ	トヨタグループ 社会貢献活動PR
11月	・第32回 大豊祭「福祉の店」	福祉の店紹介 販売手伝い
12月	・松竹梅寄せ植え鉢製作	寄せ植え鉢製作

ボランティア

地域貢献の取り組み

当社主催の障がい者交流ダーツ大会も今回で14回を迎えることができました。競技参加者は皆さん、真剣な眼差しでダーツボードに矢を投げており、従業員も競技者と一体となって楽しみながらボランティア活動に参加できるイベントです。
今後もより一層、競技参加者とボランティア参加者のふれあいの機会でもある本大会を、喜びと楽しみに溢れた大会にするべく盛り上げていきます。



第14回
障がい者交流ダーツ大会



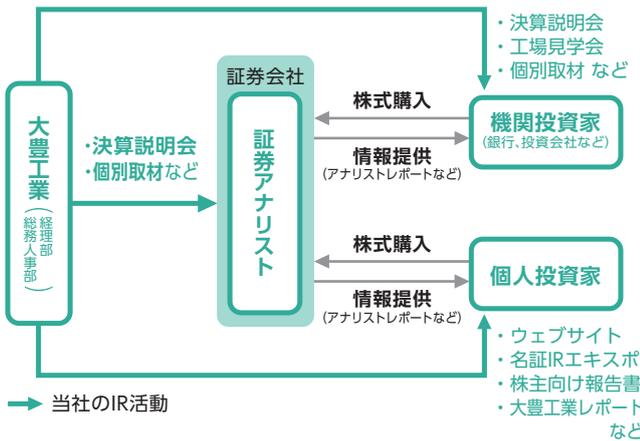
株主・投資家とともに

企業情報の発信

広報活動



当社は、的確かつ迅速・公平な企業情報の発信に努めるとともに、さまざまなIR活動を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に行っています。



IR活動実績(2016年度)

対象者	活動実績
株主	株主向け報告書発行(6月、11月) 株主懇談会(6月)
証券アナリスト 機関投資家	決算説明会(5月、11月) 個別取材対応
個人投資家	名証IRエキスポ2016出展(7月)
その他	とよたビジネスフェア出展

情報提供の取り組み

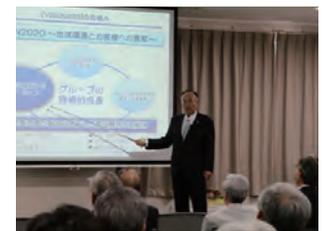
5月、11月に東京で「決算説明会」を開催しており、機関投資家、アナリストを対象に、当社の成長戦略について情報提供を行っています。



決算説明会



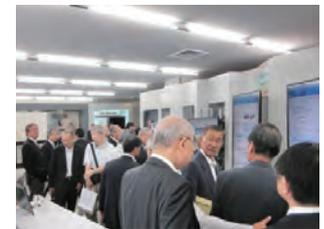
IRエキスポ



株主懇談会



とよたビジネスフェア



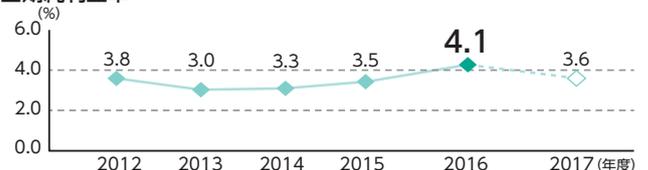
製品展示説明

安定的な利益還元

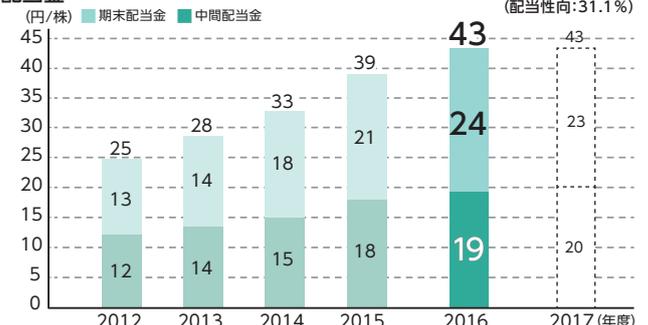
株主還元

株主様への利益還元と事業の成長および経営基盤強化のための内部留保とを総合的に勘案し、長期にわたり安定的な配当の継続を基本に考えています。内部留保した資金は、将来にわたる株主利益を確保するため、将来の事業成長のための投資および財務体質強化に活用していきます。2016年度配当金は前年度よりも増配し、43円とさせていただきます。なお、2017年度配当金は、43円を予定しています。

当期純利益率



配当金



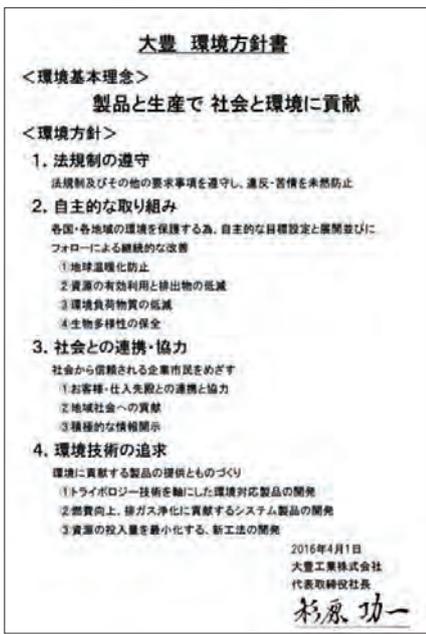
地球環境のために

地球規模の環境課題に取り組むため、自動車の燃費向上に寄与する製品を提供すると同時に、より少ない環境負荷での生産活動を目指した方針を掲げています。

環境方針と第6次大豊環境取り組みプラン

深刻化する地球環境問題に関する社会動向、法規制や自動車産業界の施策に対し、当社の理念と対応方針を「大豊環境方針書」としてコミットメントしています。

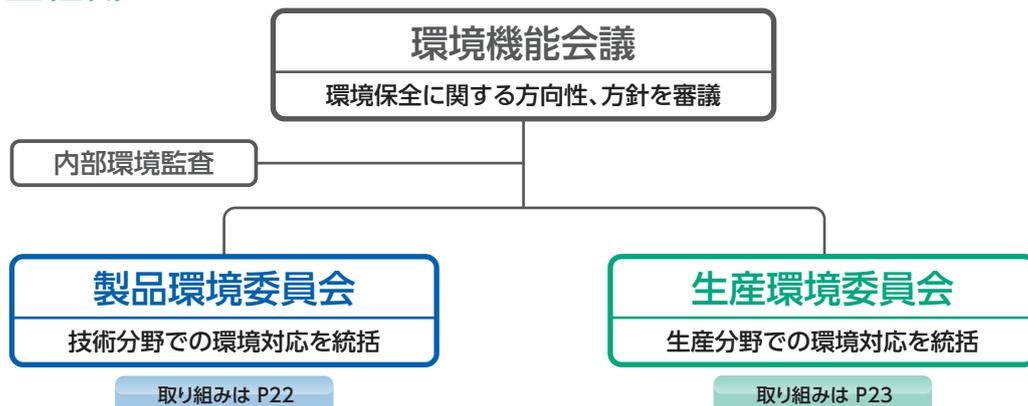
当社の製品を通じた貢献と、生産活動に伴う貢献の2つの柱で活動を進めています。



「大豊 環境方針書」におけるコミットメントを実現するため、2016-2020年度の5カ年プランを策定し、活動を推進しています。

取り組み項目			5カ年の取り組み (環境方針との対比)	
低炭素社会の構築に向けた取り組み	新車CO ₂ ゼロ	自動車の燃費向上に寄与する製品開発の推進	製品	・環境配慮製品の拡販による、環境貢献の拡大 ・EV、FCVなどの環境対応技術に貢献する製品開発 (4. 環境技術の追求)
	工場CO ₂ ゼロ	生産活動における省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減 物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	生産	新設する生産ライン導入時にエネルギー効率を評価するしくみの導入 など (2. 自主的な取り組み)
循環型社会の構築に向けた取り組み	循環型社会の構築	生産における排出物の低減と資源の有効利用 梱包資材の使用量低減と資源の有効利用		排水や廃液類を低減する処理技術の導入 など (2. 自主的な取り組み)
	水インパクト最小化	各国、各地域に合わせた水課題の対応		海外を含めた各拠点の水に関するリスクを把握し、各国、各地域に合わせた取り組みの推進 (2. 自主的な取り組み)
環境保全と自然共生社会の構築	自然共生社会づくり (生物多様性の保全)	地域とつなぐ、自然保全活動 世界とつなぐ、環境助成活動の強化 未来へつなぐ、教育貢献の強化 バイオ緑化、森林保全活動		会社の周辺地域を調査し、動植物、水などの自然資源保護の推進 (2. 自主的な取り組み)
環境経営	マネジメント	連結環境マネジメント (違反苦情未然防止)	-	活動範囲のグローバル化 (1. 法規制の遵守)
		サプライヤーと連携した環境活動の推進 環境教育活動の充実と推進 環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実		活動範囲のグローバル化 (3. 社会との連携・協力)

環境保全組織

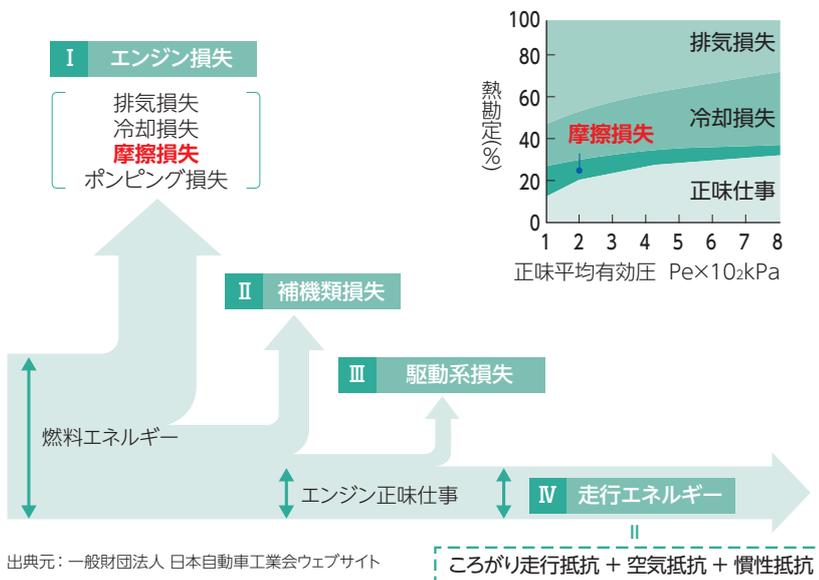


製品環境分野

一般的な自動車における燃料エネルギーのうち、純粋な自動車としての運動エネルギーは30%程度しか利用されません。残り70%程度のエネルギーは、熱等として損失しています。

当社では、このエネルギー損失のうち、10%程度を占める摩擦損失の領域において、低摩擦製品の開発を進め、自動車の燃料エネルギー利用率向上=燃費向上に貢献しています。

そこで、製品環境の活動として、「社会と環境に貢献できる製品の提供」「環境負荷物質の低減」を方針とし、一步先を行く開発を意識して活動しています。



製品に関する規制への対応

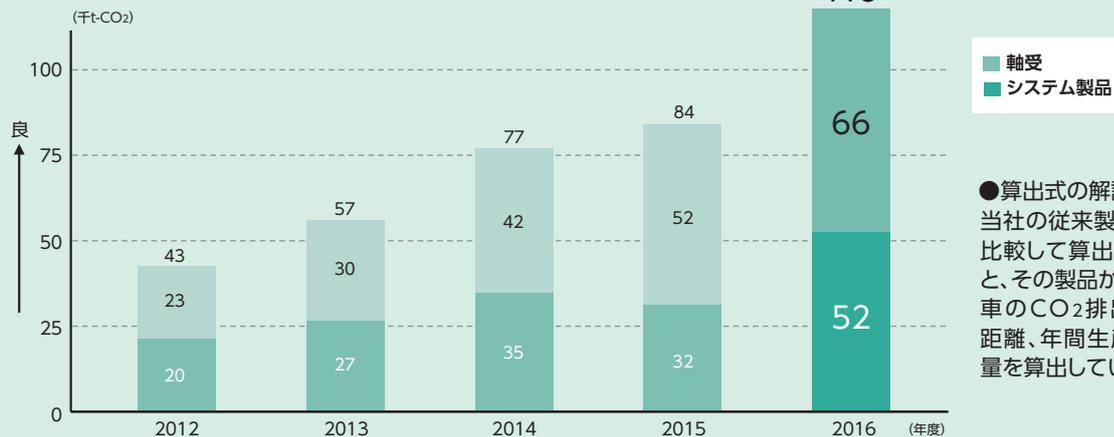
当社では、製品に適用される規制動向を確認しています。特に海外の化学物資規制は、製品設計時に考慮すべき要件となるため、情報管理を継続しています。

対象の規則	取り組んでいる状況	2016年度結果
REACH規則	GADSL (Global Automotive Declarable Substance List) 追加禁止物質の含有調査	含有無し
ELV指令	2016年末までに鉛の適用除外が解除される製品への含有調査	含有無し
RoHS指令	現適用規制の該当調査	該当無し
欧州以外の規制	中国、インド、その他途上国の規制動向調査	適宜報告

当社製品の搭載された自動車が一般社会に普及することで環境保全に貢献することを、当社では「製品による環境への貢献」と定義しています。燃費改善によるCO₂削減量を貢献量として、公表しています。

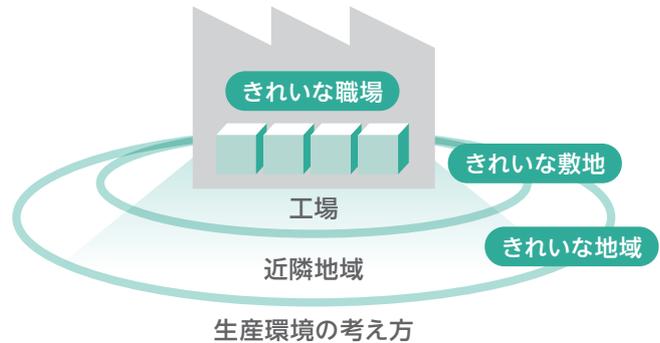
$$\text{貢献量} = \text{燃費向上率 (理論値)} \times \text{当社製品の搭載車CO}_2\text{排出量 (自動車メーカー公表値)} \times \text{年間走行距離 (当社推計値)} \times \text{年間生産台数 (製品販売数からの算出値)}$$

●貢献量グラフ



生産環境分野

生産環境活動では、地域にご迷惑をかけないことを目的とした、環境違反・苦情の未然防止活動に始まり、地球環境に配慮したCO₂排出量の削減などに取り組んでいます。また、工場内の4S(整理、整頓、清潔、清掃)を徹底し、きれいな職場を維持することで、安全、品質に優れた安定稼働の確保と、絶対にご迷惑をかけない地球・地域に優しい生産活動を日々心がけています。



環境違反・苦情の未然防止

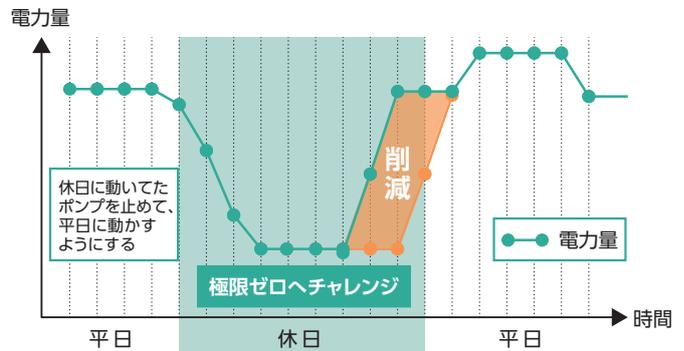
工場敷地内に水質の常時監視装置を設置しました。万が一、異常な排水が発生しても「止まる」「知らせる」システムによって、社外への流出を回避します。



常時監視装置

非稼働時のエネルギー低減

各工場、生産ラインごとにエネルギー使用量の見える化システムを導入しました。2016年度は休日(非稼働日)のエネルギー使用量からムダを見つけ、改善につなげています。今後、直間(稼働時間の合間)、休憩時間等も同様に展開し、徹底的に低減していきます。



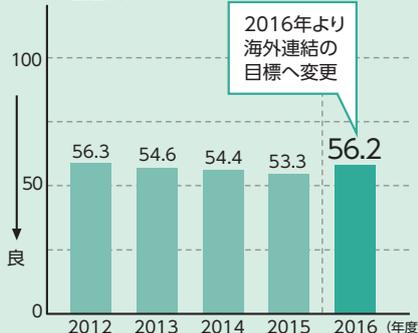
当社の生産活動における環境負荷低減のため、「違反・苦情件数」「CO₂及び廃棄物原単位」の指標を用いて、改善活動を継続しています。

$$\text{CO}_2\text{、廃棄物原単位} = \text{CO}_2\text{総排出量 or 廃棄物総排出量} / \text{製品出荷数(生産数)}$$

●違反・苦情件数 (件)



●CO₂原単位(海外連結) (t/生産数)



●廃棄物原単位(国内連結) (t/生産数)



各工場の取り組み

各工場の詳細な取り組みはWEBで公開しています。

URL : <http://www.taihonet.co.jp/company/report2017.html>

愛知県 4工場

本社工場

本社工場は周辺に住宅が立ち並び、近隣住民にご迷惑をかけないことを第一義にしています。今後も地域の皆様と連携した環境保全を図ります。



工場長
森安 昌弘

幸海工場

工場周辺は緑に囲まれ近くにはラムサール条約に登録された矢並湿地があります。この自然環境を守るためにグリーン&クリーンな工場を目指します。

細谷工場

生産効率の向上によるエネルギー低減に取り組んでいます。2017年も更なる生産効率の向上とエネルギー使用量見える化による改善を進めます。



工場長
岡元 義幸



工場長
岸 吉信

篠原工場

生産性を向上しつつ環境効果を見込む儲かる環境活動を展開してきました。今後は全ライン・全工程の省エネにこだわった活動を展開します。

九州工場

2016年はエネルギー使用量の見える化を活かしたムダの発見と、改善を進めてきました。2017年も継続し根本的な改善で環境パフォーマンス向上につなげます。

鹿児島県 1工場

取引先との取り組み(グリーン調達)

グリーン調達活動の一環として豊成会各社を訪問し、電力使用量の実績をもとに照明や動力設備等にムダがないか、現地・現物確認会を継続しています。この会合では当社省エネ担当者がリーダーとなり、省エネの着眼点、考え方の勉強会も行っています。また、独自のCO₂削減目標と環境負荷物質管理も設定し、取り組みを継続しています。



現地・現物確認会

啓発活動

環境教育

環境保全活動を継続的に行うためにも、環境教育を実施しています。2016年度は200名以上が受講しました。

区分	教育名	対象者	受講者数 (2016年度)
環境教育	新任者教育	環境組織構成員	17名
	監査員リフレッシュ教育	内部監査員	約30名
	設計者教育	技術部門	約30名
	連休前環境会議	工事担当者	延べ140名

外部との連携、取り組みPR

愛知県豊田市にある4事業所を中心として、豊田市と「環境の保全を推進する協定」を締結し、協議会へ参画しています。この協議会は環境に関する勉強会の開催や、豊田市民と企業のコミュニケーションを充実するため、とよた産業フェスタなどに出展し、企業の取り組みをPRしています。また、トヨタ自動車(株)主導の「オールトヨタ生産環境連絡会」にも当社は参画しています。

環境月間

毎年6月に環境月間行事を実施しています。2016年度は環境美化、緑化活動を共通テーマにし、各工場、国内各社にて独自の取り組みを実施しました。



本社周辺の清掃



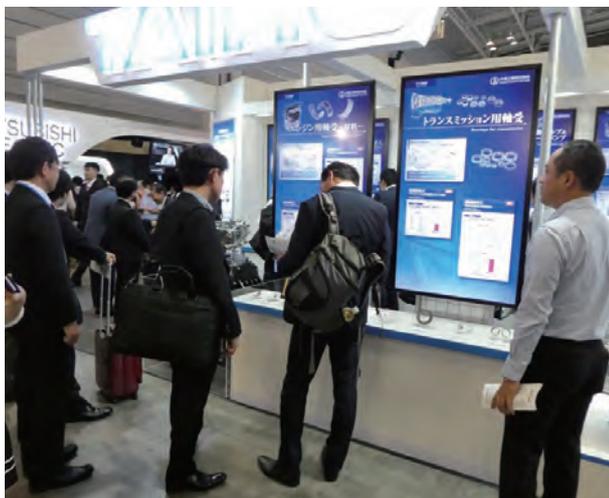
大豊岐阜(株)の緑化活動



協議会が開催した勉強会(豊田市提供)

製品・技術のPR

当社の製品や技術のPRを、様々なイベントで行っています。2016年度は「人とくるまのテクノロジー展2016」などへ出展しました。



人とくるまのテクノロジー展2016

自然共生活動

当社では生物多様性の保全を自然共生活動と位置付け、2016年度に取り組み内容を検討しました。今後は以下の活動に取り組みます。

考え方	自然共生活動
事業所を中心とした 周辺地域の自然保全	工場内、工場周辺地域の 外来生物駆除活動
社外活動への 参加を通じた自然保全	希少な動植物の住む湿地の 保存活動の支援



湿地の保存活動の様子

国内グループ、海外グループの取り組み

深刻化する地球環境問題に対し、大豊グループとして
グローバル連結の取り組みの強化を図り、各国・各地域の
環境課題に合わせた活動体制の構築を進めています。

共有する
環境課題

気候変動

資源

法令遵守

気候変動に対する主な取り組み事例

ここで紹介している事例は一例です。

グループ各社の取り組みはWEBで公開しています。

URL : <http://www.taihonet.co.jp/company/report2017.html>

国内グループ

太陽光発電で創エネ

大豊精機株式会社

自然エネルギー推進の取り組みとして、本社工場に太陽光パネルを設置し、平時約110kWhの電力を創出できます。社内エネルギーの一部を再生可能エネルギーに切り替えました。



乾 昌宏



太陽光パネル

海外グループ

乾燥工程の削減

タイホウ ヌサンタラ株式会社

軸受の加工機に付帯している乾燥機をやめ、エアブローに変更しました。これにより電力量を大幅に低減しました。



AGUS HUMARDI



乾燥機の変更

輸送工程の短縮化

タイホウコーポレーション オブ ヨーロッパ

日本から輸入している材料・完成品の輸送ルートを北欧航路から地中海航路に変更することで、海上・陸上ともに輸送距離を短縮しました。



Árpád Bartuszek



TCEへの輸送ルート

環境法令の遵守状況

愛知県豊田市にある4工場並びに鹿児島県出水市にある1工場において、2016年度は環境関係の規制基準の超過はありませんでした。

ばいじん、NOx

対象事業所	ばいじん (規制値:0.2g/m ³ N)	NOx (規制値:70~200ppm)
本社工場	<0.0002~0.0091g/m ³ N	<9~42ppm
細谷工場	<0.0002g/m ³ N	11~24ppm
幸海工場	<0.0002g/m ³ N	<9~36ppm

各種装置ごとに測定した結果をまとめて表示しています
 <は定量下限値未満を示しています

トリクロロエチレン

対象事業所 ※1	地下水測定データ	回収量 ※2
本社工場	<0.000~2.36ppm	80.53kg
細谷工場	<0.000~0.090ppm	0.34kg

計画的な測定、対策と定期的な行政への報告を継続しています。

※1 上記以外の事業所では検出されていません
 ※2 回収量は官公庁へ届出している社内の算出値です

ダイオキシン類

対象事業所	対象設備	測定結果 (規制値:5ng-TEQ/m ³ N)
本社工場	アルミ集中溶解炉	0.00000069ng-TEQ/m ³ N

PCB含有機器 保管量

保管事業所	保管台数	処分台数
本社工場	0台	—
細谷工場	蛍光灯安定器等 154台	14台

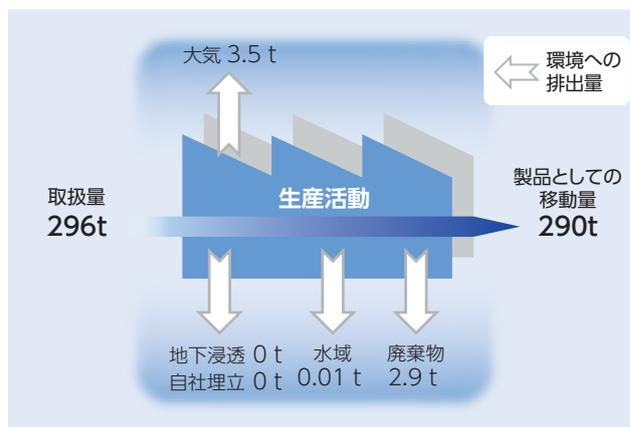
PCB廃棄物処理基本計画の変更を受け、含有機器の再調査と処分を実施しました。

放流水質(有害物質項目)

対象事業所	項目	測定結果 (カッコ内は規制値)
本社工場	鉛およびその化合物	<0.02mg/L (0.08)
	ホウ素およびその化合物	<0.05mg/L (4)
	アンモニウム化合物、硝酸・硝酸化合物	1.1~5.1mg/L (20)
細谷工場	鉛およびその化合物	0.01~0.02mg/L (0.08)
	ホウ素およびその化合物	<1.0~2.0mg/L (4)
	フッ素およびその化合物	<0.1~4.3mg/L (8)
	アンモニウム化合物、硝酸・硝酸化合物	<0.1~8.0mg/L (20)
幸海工場	フッ素およびその化合物	<0.1mg/L (8)
	アンモニウム化合物、硝酸・硝酸化合物	<0.1~9.0mg/L (20)

篠原工場、九州工場では有害物質を使用していません

PRTR法に基づく 排出・移動量



企業活動に伴うマテリアルフロー

投入資源

●電力量



軸受素材の生産増加により、電力使用量は増えています。

●都市ガス



生産設備の炉や空調で使われており、使用量は横ばいです。

●金属原材料



軸受素材の生産量に応じて推移しています。

●水



めっき製品のライン設置により水使用量は増加しています。

●従業員数



計画的な雇用を維持しています。

※売上高指数
2012年の売上を1とした場合の、売上の伸び率

生産活動

鑄造

成形

切削

表面処理

組付

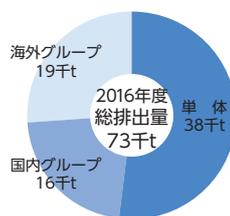
●社内循環資源量(ダイカスト製品)



ダイカスト製品の生産量に応じて推移しています。

排出量

●大豊グループ全体の温室効果ガス(CO₂)総排出量内訳



海外グループのCO₂排出量の比率が上昇しています。

●温室効果ガス(CO₂)総排出量



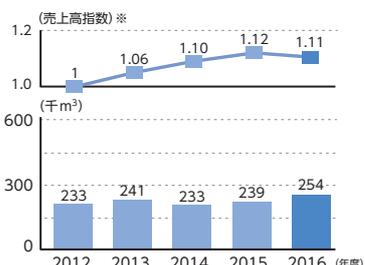
軸受素材の生産増加により、CO₂排出量が増加しています。

●廃棄物総排出量



改善活動により減少しています。

●放流水量



水使用量の増加に伴い、社内排水処理量も増加しています。

●PRTR法対象物質取扱量



製品の評価試験に使用するガンソリンが増えたため、増加しています。

業績ハイライト(連結)

売上高 1,089億53百万円

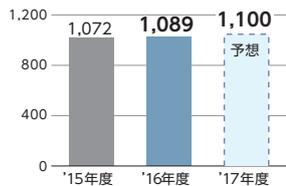
営業利益 63億57百万円

経常利益 62億65百万円

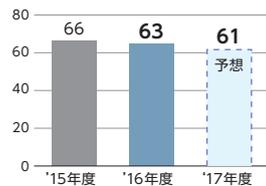
親会社株主に帰属する当期純利益 44億54百万円

単位: 億円

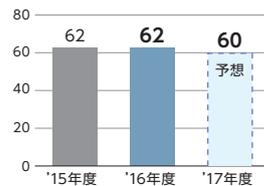
●売上高



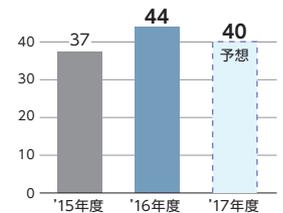
●営業利益



●経常利益



●親会社株主に帰属する当期純利益



連結貸借対照表

単位: 百万円

科目	当連結会計年度末 2017年3月31日現在	前連結会計年度末 2016年3月31日現在	科目	当連結会計年度末 2017年3月31日現在	前連結会計年度末 2016年3月31日現在
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	57,649	49,189	流動負債	28,230	34,035
現金及び預金	20,194	12,719	支払手形及び買掛金	8,074	10,603
受取手形及び売掛金	14,696	18,134	短期借入金	251	—
たな卸資産	11,000	10,415	未払費用	5,507	5,146
繰延税金資産	1,441	1,520	その他	14,394	18,282
その他	10,331	6,631	固定負債	23,565	11,697
貸倒引当金	△16	△233	長期借入金	20,548	8,589
固定資産	55,937	55,717	退職給付に係る負債	1,791	1,768
有形固定資産	49,411	49,421	その他	1,224	1,338
建物及び構築物	11,841	12,468	負債合計	51,796	45,733
機械装置及び運搬具	18,297	18,260	【純資産の部】		
土地	13,328	13,364	株主資本	60,045	56,436
建設仮勘定	4,340	3,764	資本金	6,636	6,480
その他	1,604	1,562	資本剰余金	10,104	9,949
無形固定資産	1,187	1,166	利益剰余金	43,497	40,199
投資その他の資産	5,338	5,129	自己株式	△193	△192
合計	113,586	104,906	その他の包括利益累計額	912	1,891
			その他有価証券評価差額金	1,136	973
			為替換算調整勘定	373	1,503
			退職給付に係る調整累計額	△597	△586
			新株予約権	118	112
			少数株主持分	714	732
			純資産合計	61,790	59,173
合計	113,586	104,906	合計	113,586	104,906

【流動資産】

当連結会計年度末における流動資産の残高は57,649百万円であり、前連結会計年度末に比べ8,460百万円増加しております。現金及び預金の7,474百万円の増加、たな卸資産の583百万円の増加、受取手形及び売掛金の3,437百万円の減少が主な要因であります。

【固定資産】

当連結会計年度末における固定資産の残高は55,937百万円であり、前連結会計年度末に比べ220百万円増加しております。建物及び構築物の627百万円の減少、建設仮勘定の575百万円の増加が主な要因であります。

【流動負債】

当連結会計年度末における流動負債の残高は28,230百万円であり、前連結会計年度末に比べ5,805百万円減少しております。支払手形及び買掛金の2,529百万円の減少が主な要因であります。

【固定負債】

当連結会計年度末における固定負債の残高は23,565百万円であり、前連結会計年度末に比べ11,868百万円増加しております。長期借入金の11,958百万円の増加が主な要因であります。

【純資産】

当連結会計年度末における純資産の残高は61,790百万円であり、前連結会計年度末に比べ2,617百万円増加しております。利益剰余金の3,298百万円の増加、その他有価証券評価差額金の162百万円の増加、為替換算調整勘定の1,130百万円の減少が主な要因であります。

連結損益計算書

単位:百万円

科 目	当期連結累計期間	前期連結累計期間
	2016年4月1日から2017年3月31日まで	2015年4月1日から2016年3月31日まで
売上高	108,953	107,288
売上原価	88,886	87,005
販売費及び一般管理費	13,708	13,652
営業利益	6,357	6,629
営業外収益	258	290
営業外費用	350	623
経常利益	6,265	6,297
特別利益	27	134
特別損失	65	881
税金等調整前当期純利益	6,226	5,550
法人税、住民税及び事業税	1,660	1,831
法人税等調整額	△10	△90
少数株主損益調整前当期純利益	4,577	3,809
少数株主利益	122	37
当期純利益	4,454	3,772

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科 目	当期連結累計期間	前期連結累計期間
	2016年4月1日から2017年3月31日まで	2015年4月1日から2016年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,641	10,474
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,416	△8,493
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,951	△2,057
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53	△224
現金及び現金同等物の増減額	7,123	△301
現金及び現金同等物の期首残高	12,571	12,711
現金及び現金同等物の期末残高	19,694	12,571

「大豊工業レポート 2017」発刊にあたって

皆様、大豊工業レポートをご一覽いただきありがとうございました。

当冊子は環境改善や社会貢献活動等の“非財務情報”と売上高、利益等の“財務情報”を一冊にまとめた「統合報告書」を念頭に置いて制作したものです。

具体的な活動内容や実績数値等のファクトをできる限り多く掲載し、「より解りやすく、より親しみやすい」冊子となるよう、スタッフ一同出来る限りの努力をしたつもりです。

当冊子を通じて多様なステークホルダーの皆様が大豊工業グループへのご理解を深めていただければ望外の喜びです。

今後も当冊子の一層の充実を図っていく所存ですので、皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。



常務執行役員
川治 豊明

 中期経営方針 2016-2018年度

ゆるぎない 「信頼と技術」で グローバルに躍進

- 技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる。
- 人材・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する。

TAIHO

■表紙の解説

当社は、優れた材料、設計、潤滑技術により、低摩擦な製品・すべり軸受を開発しています。表紙は軸受と流体をイメージしています。



大豊工業レポート2017

Taiho Kogyo Report

お問い合わせ先

大豊工業株式会社

CSR推進室

TEL:0565-28-2225(代) FAX:0565-28-2227

WEB版

本報告書は当社ウェブサイトからダウンロードできます。

URL: <http://www.taihonet.co.jp>

